

歴文3月・月例研修会報告

早春の龍田古道を歩く

杉本 登



ぽかぽか陽気の3月13日(火)にJR大和路線三郷駅に28名の皆さんが集まる。まず龍田大社に参拝、創祀は2108年前の崇神天皇の頃とされまさに神話時代の古い社だ。ご祭神はシナツヒコ、シナツヒメで風の神様。日本で唯一の風を祀る神社で、昨年10月には、平昌五輪のスキージャンプで銅メダルの高梨沙羅さんもお参りにきたそうだ。

参拝の後、万葉歌人高橋虫麻呂の長歌について説明する。この歌は732年に藤原不比等の子、宇合(うまかい)が西海道節度使として赴任するのを見送りにきた時に詠まれた。情景描写に優れた歌である。三郷駅前には犬養孝先生揮毫の高橋虫麻呂の万葉歌碑がある。

犬養先生によれば万葉の時代、歌は声に出して朗唱していたそうだ。貴族は別として庶民は文字を知らなかったからと言われて納得、私もまねをして声に出し朗唱している。歌を朗唱するのが苦手な方も、大きな声で歌うことは健康にはすこぶる良い。「シニアは大きな声で歌うべし」と、全員で朗唱する。

すぐそばの磐瀬の杜には、鏡王女の天智天皇に捧げた相聞歌が刻まれた歌碑があり、ここでもさらにいくつかの万葉歌を紹介する。



(峠八幡神社前のお地藏さん)

龍田古道はここから登りの狭い山道となり次の目的地の峠八幡神社へと向かう。

龍田古道はここで川沿いの下ツ道と山越えの上ツ道とに分かれる。この境内で昼食と休憩をとる。

昼食後、峠を下って次の目的地、亀の瀬地滑り資料館に向かう。資料館では国土交通省の方から「亀の瀬の地滑り」についての説明を受けた。

最初にビデオを見た後、1Fパネルの前で地滑りのメカニズムや規模の話聞く。もし地滑りを放置すると、大和川が堰き止められて大阪側に大土石流となって流れ出し、その被害は4兆円とか、すさまじい規模である。奈良県側も浸水被害は出るだろうが、主として大阪を守るために地滑り対策を実施しているとのことである。



ここで地滑りのメカニズムの説明がある。大昔火山が噴火し溶岩が流れ出し固まった後、粘土層が堆積し、その上にまた火山の溶岩が流れ出し固まった。つまり土中に滑りやすい粘土層の地層が存在する。そこに大雨が降ると粘土層が水分を含み滑り始めるということであった。

粘土層から水を抜くための井戸や、排水トンネルを見学した後、昭和7年に地滑りで埋まった旧関西線のトンネルを見る。ここは水抜きトンネルを開削中に偶然見つかったもので、明治25年に作られたレンガ造りのトンネルがそのまま姿を見せる。その後大和川の南側へ線路を付け替え、2本のトンネルを掘る大工事が昭和7年12月31日に完成した。

わが国最大規模と言われる亀の瀬の地滑り対策は、昭和37年に始まり平成22年に完了した。その直後に近くの稲葉山が動いているのが判明し、現在も対策工事が継続されている。50年以上も続く大事業を、近くに住んでいながらほとんど内容を知らず、今回地滑りのメカニズムや対策工事の概要を知る事ができた。大変良かったと感じている。